

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



○りんごの生育前進、春作業は計画的に進めましょう

今冬の管内平均積雪量は平年よりも非常に少なく、最も多かった3月上旬は54cmでした。気温については12月から2月まで平年よりも高い気温で推移したものの、2月下旬以降の気象は不安定となり、積雪が0だった一部園地では再び雪が積もるなどし、凍害の影響が心配されます。

当JA管内における「ふじ」の発芽日は、早い地点で昨年よりも12日程遅い4月5日となりました。1回目の葉剤散布は4月20日前後からと見込まれ、気温が高く推移した場合や、降雨がある場合は更に早まることが予想されます(4/8現在)。開花については、今後の気温が予報通りに推移した場合、黒石のりんご研究所で5月1日頃と予想されています(ふじ)。

○凍霜害に注意！
花芽の耐凍性は生育の進みとともに低下し、霜害を受ける危険性があります。降霜は一般的に晴天

無風で、午後7時の気温が6度以下の日翌朝に発生する危険性が高いことから、気象情報等に十分注意して下さい。尚、防霜ファンを設置している園地では機器の始動点検を行い、稼働状況を確認して下さい。また、防霜ファンを設置していない園地では霜害防止対策資材の準備を行い、被害の軽減に努めて下さい。

○結実量確保に向けて

近年、開花期間中の低温や強風等の影響により、カラマツが発生しています。また、本年は一部で弱小芽や花芽不足が見えるため、積極的に人手授粉を行います(花粉の交雑和合性や発芽率は要確認)。

○農薬散布にあたっての注意事項

- 散布は降雨前に実施
- 散布間隔は10日以内を守る (6月中旬まで…黒星病重点防除時期)
- 適期・適量散布を徹底する
- 農作業事故には十分注意する

●りんご病害虫防除暦 (第1回目～第5回目)

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
1	300㍓	展葉 1週間後頃	ベフラン (液) バリアード (顆水) ハーベストオイル	1,000倍 4,000倍 200倍	●混用順序 ①水→②ハーベストオイル→③バリアード (顆水) → ④ベフラン (液)
2	320㍓	開花直前	カナメ (F) 又はパレード15 (F) アタブロンSC	4,000倍 2,000倍 4,000倍	●昨年、褐斑病が多発した園地ではパレード15 (F) を 選択する。
3	350㍓	落花直後	ミギワ20 (F) ジマンダイセン (水) アタブロンSC 果面保護剤	4,000倍 600倍 4,000倍	●リンゴハダニの発生が見られる場合は、バロック (F) を加用する。
5月中旬 コンフューザーRの設置					●コンフューザーRを 5月下旬までに設置 し、ハマキムシ類及びシンクイムシ類における次世代の密度低下に努める。
4	350㍓	落花10日後	デラン (F) エルサン (水) 果面保護剤	1,500倍 1,000倍	●デラン (F) とユニックス (顆水) の混用は避ける。
5	420㍓	落花20日後	ジマンダイセン (水) サイアノックス (水) 果面保護剤	600倍 1,000倍	

※赤字表記は本年の防除暦に新しく採用された薬剤。

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素からJA相馬村フルーツデーションをご利用いただき誠にありがとうございます。

3月の果実販売動向ですが、イチゴについては月の初めは産地の天候不順などにより流通量が減少していましたが、月の後半にかけて3番果が本格化したこともあり流通量は回復していきました。ひなまつり需要や企画が多く組まれていたことから引き合いは月を通して強く、月の後半は若干下げ基調の展開とはなったものの、全体を通しては概ね高値基調で価格は推移しました。

中・晩柑類については各品種とも入荷量が少ない状況が続く中、気温の上昇により品質低下が増加し、これまでの売価高もあいまって鈍い荷動きとなりました。価格については堅調を維持しているものの、売場は広がらず、このまま終盤を迎えていくものと思われる。リンゴについてはサンふじの上位等級品が流通量の少なさをから

き合いが強く、高値基調の販売となりました。反面下位等級品については上位等級品との価格差により一定の引き合いはあるものの、消費地の気温上昇に伴う品質懸念も徐々に高まっており、厳しい販売となりました。ただし比較的売価の安い小玉果の袋詰め製品の注文が増えており、例年以上の出荷となっております。

王林・シナノゴールドに関しては「スマートフレッシュもの」の出荷が始まりましたが流通量は少なく、堅調な販売となりました。サンジョナゴールドに関しては

3月に選果が本格化していきましたが、本年度産は軟質果の割合の高さが例年より懸念されるため、前進出荷を心掛けております。

輸出に関しては台湾向けの王林が終了しましたが、品薄に加え上位等級品の比率の低さから出荷量は例年を下回りました。続いて香港向けに王林やサンふじの輸出が始まっていますが、こちらも出荷

量は減少する見込みです。

今後イチゴは3月からの売場の拡大が4月中も続く見通しですが、多品種と比べ比較的收入荷が安定していることや品質低下の懸念もあり、値ごろ感のある販売が予想されます。

中・晩柑類については引き続き入荷量は少ない状況が続くものの、競合品種が少なくこともあり一定の売場は確保される見込みです。ただしいちご同様品質低下が懸念されるため、荷動きは緩慢なことが予想されます。

リンゴについてはサンふじ・王林・サンジョナ・シナノゴールドがスマートフレッシュものに完全に切り替わり、価格がさらに引きあがることから荷動きは堅実なものが予想されます。一方仲卸ではサンふじの販売期間を引き延ばしたいといった声も聞かれており、サンふじに対する引き合いは続いていくものと思われる。今後は有袋ふじ、有袋ジョナ等の最終盤の品種の選果作業が始まっていきますが、引き続き品質低下に注視しつつ有利販売を目指してまいります。

全農あおもりデータ (3/29 累計)

品 種	サンふじ	ふ じ	王 林	シナノゴールド	ジョナ	その他	合 計
単 価 (円)	3,849	6,658	4,057	4,366	4,909	4,324	3,821
前 年 比 (%)	147	164	126	150	139	146	143
販売数量 (箱)	3,149,383	4,830	415,419	49,272	232,254	2,067,037	5,918,195
前 年 比 (%)	77	269	77	114	65	70	74